

第115回 品質管理シンポジウム (QCS)

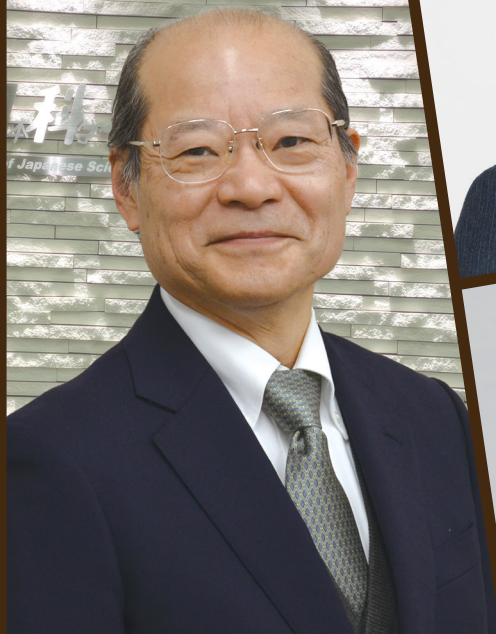


【講演1】

(一財) 日本科学技術連盟

嘱託

光藤 義郎 氏



【講演2】

原田 聡 氏

トヨタ自動車九州(株)

経営企画本部長



【講演3】

増本 陽秀 氏

(株) 麻生 飯塚病院 院長



【講演5】

原和彦 氏

アクシアルリテイリング(株)
代表取締役社長・CEO



【講演4】

佐々木 正人 氏

(株) 竹中工務店 取締役社長



【特別講演】

慶應義塾大学 環境情報学部 教授
Zホールディングス(株) シニアストラテジスト
安宅 和人 氏



日程：2023

6.1 Thu ~ 3 Sat

会場：大磯プリンスホテル

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟

後援：一般社団法人 日本品質管理学会

WEB：<https://www.juse.jp/qcs/>



顧客価値創造を実現できる組織能力の 獲得に向けて「方針管理」を見直す

の獲得に向けて「方針管理」を見直す

講演概要

6/1 (木) 特別講演

残すに値する未来を考える

安宅 和人 氏

慶應義塾大学 環境情報学部 教授
Zホールディングス(株) シニアストラテジスト



6/2 (金) 講演 1

方針管理の温故知新

光藤 義郎 氏

(一財) 日本科学技術連盟 嘱託

方針管理についての温故(故きを温ねる)としては、まず1950年代、品質管理創成期に誕生した管理項目の概念、1961年帝人による管理項目一覧表、1964年小松による旗方式を経て、1965年ブリヂストン/トヨタにより方針管理という用語/概念が誕生していった経緯を辿った上で、その後、多くの企業で方針管理の考え方/方法論が普及/発展していくなか、1985年前後に起こった方針管理偏重に対する反省と日常管理復興等の歴史を振り返ります。また方針管理の知新(新しきを知る)としては、2000年代、日本経済低迷期のなかでJIS化された方針管理の指針をベースに、2016年JSQCメンバーを中心に進められた同規格の改定、更には2020年から始まったJUSE「方針管理研究会」の活動成果等も含め、昨今の方針管理を取り巻く環境変化に基づく幾つかの問題/課題と、それらをクリアするための考え方/アイデア、新たに求められる機能や今後のあるべき方向性等を探っていきたいと思います。



6/2 (金) 講演 2

経営環境変化に適應するTQM(方針管理)の活用

原田 聡 氏

トヨタ自動車九州(株) 経営企画本部長

トヨタ自動車九州は、トヨタ自動車の100%出資の子会社で、レクサスインターナショナルカンパニーの一員として、レクサス車両の設計、生産を担っております。

1991年創業以来「お客様第一、絶え間ない改善、全員参加」の理念を大切に、九州の地で真摯にモノづくりに努めてまいりました。

自動車業界は、CASEやMaaS、またカーボンニュートラルの対応など100年に一度と言われる経営環境変化の只中にあります。

また直近ではコロナ禍、半導体不足という予測が困難な事態が発生しています。

こういった外部環境に対し、どのようにTQM(方針管理)を経営に活用しているかを紹介します。



6/2 (金) 講演 3

飯塚病院におけるTQMの展開と方針管理

増本 陽秀 氏

(株)麻生 飯塚病院 院長

飯塚病院は福岡県の筑豊地域において、高度急性期・急性期医療を提供する総合病院です。1918年の開院以来、開設の精神「郡民のために良医を招き、治療投薬の万全を図らんとする」に則り、医療による社会貢献と理念に謳う「まごころ医療」を実践する努力を続けて参りました。

近年、超高齢社会、人口減少、パンデミックなど、医療を取り巻く環境は厳しさを増しています。当院は地域医療における使命を果たすため、「2025年度ビジョン」「Patient Firstを追求し、選ばれる高度急性期・急性期病院」を設定し中長期計画を策定しました。ビジョンの実現を目指して、2018年度よりTQMを推進強化しつつ中長期計画を実行し、この取り組みは病院初の2022年度「デミング賞」受賞につながりました。飯塚病院の方針管理と、試行錯誤しつつ展開してきたTQMの現状をご紹介します。



6/2 (金) 講演 4

(仮)企業存在価値の創造 品質経営

佐々木 正人 氏

(株)竹中工務店 取締役社長

2022年度日経品質管理文献賞を受賞した弊社TQM推進室編の書籍「企業存在価値の創造 品質経営」を題材に、竹中工務店の品質経営の取り組みを紹介します。長年の建築事業で展開してきた建築とまちづくりによる顧客価値創造の様々な試みを説明しつつ、それを支える方針管理を、実践における問題解決や課題達成の様子を交えて、お話ししていきます。



6/2 (金) 講演 5

お客様への 新たな価値提供を実現する 方針管理活動

原 和彦 氏

アクシアル リテイリング(株)
代表取締役社長・CEO

アクシアル リテイリンググループはスーパーマーケット「原信」「ナルス」「フレッセイ」132店舗を、北陸、北関東にチェーンストア展開しています。チェーンストアとしてのマスメリットを生み出し、お客様の毎日の生活に豊かさ、楽しさ、便利さをご提供していくことを目指しています。

多様化するお客様のニーズや、人口構造、社会環境の変化に対応し、お客様に商品・サービスの新たな価値をご提供していくための仕組みとなる弊社の方針管理活動をご紹介します。



趣旨



永田 靖氏

早稲田大学 教授
第115回
品質管理シンポジウム
主担当組織委員

品質管理活動を実施して効果を上げている組織の経営者は、しばしば、「品質管理活動には方針管理がある点が良いですね」と称賛されます。それは、組織のビジョン・ミッションや中長期経営計画が、方針管理により具体的な方針として全組織に展開され、目標・評価指標と方策などの具体的な手段の設定により全組織に浸透するからでしょう。方針管理は、日本的品質管理が生んだ経営方法論の傑出した「乗り物」の一つです。そして、経営者に対して最もインパクトのある方法論です。経営者が「こうしたい」と考えている内容を、全組織でベクトルを合わせて、推進できるからです。

しかし、「方針管理がうまく進まない」「方針管理の進捗評価が難しい」「方針管理が形骸化している」「方針管理・日常管理・機能別管理が上手くリンクしない」などの悩みの声も聞こえてきます。自組織においてこれらの症状を発見できても、その要因がどこにあるのかははっきりしない場合が多いでしょう。

また、昨今の一連の品質不祥事の多くは、「方針管理がしっかりできていなかった」「日常管理に正しい形で結びついていなかった」といったことが原因ではないかと思われます。つまり、「適切な目標が立てられていなかった」「目標達成のために適切な手段・方策が準備されていなかった」ために、問題が放置されていたとも考えられます。

以上のような観点から、「方針管理を体系的に学びたい」「方針管理を学び直したい」というニーズは高いです。例えば、最近のクオリティフォーラムにおいて、方針管理のセッションへの参加者が一番多いというデータがあります。また、第111回品質管理シンポジウムのGDでは、「コトづくりにおいて方針管理は有効か」という問題提起もなされました。「いまさら方針管理」というのではなく「いまこそ方針管理」という視点から、「方針管理を見直す」を今回の品質管理シンポジウムの目的と設定しました。

そこで、「顧客価値創造を実現できる組織能力の獲得に向けて『方針管理』を見直す」をテーマとし、「組織能力の向上、価値創造を目指した新たな方針管理に取り組むためのトップの役割」「中長期的な経営目標・戦略の実現のための方針管理の効果的な進め方」を検討したいと考えます。さらには、「経営目標・事業戦略に向けた組織能力の向上のための方針管理」、「モノづくりの方針管理とコトづくりの方針管理」、「方針管理と日常管理の区分けと連携」、「方針管理と機能別管理との連携」、「方針管理の効果的な進め方」、「事業環境変化に伴う方針管理の運用の仕方」、「方針管理の進捗を適切に測る管理指標の設定方法」、「方針管理を適切に実行できる人材育成の方法」などに焦点を当てて議論を深めていきたいと考えています。

プログラム

開催期日：2023年6月1日（木）～6月3日（土）
会 場：大磯プリンスホテル

※テーマ及びプログラムは変更になる場合があります。
※組織名・役職は2023年3月現在の表記になっております。

月日	時 間	科 目（講演テーマは仮）	講演者（敬称略）
6/1 （木）	19:00～20:10	〈特別講演〉残すに値する未来を考える	安宅 和人 慶應義塾大学 環境情報学部 教授 Zホールディングス(株) シニアストラテジスト
	20:10～20:30	質疑・応答	
	20:30～22:00	GD(1)、談話室	
6/2 （金）	8:30～ 8:40	主催者挨拶、ご連絡事項説明	佐々木 真一 (一財)日本科学技術連盟 理事長
	8:40～ 9:10	〈オリエンテーション〉第115回品質管理シンポジウムの趣旨、ねらい、GDテーマ設定のねらいと進め方	永田 靖 早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 教授 (115QCS主担当組織員)
	9:10～ 9:55	〈講演1〉方針管理の温故知新	光藤 義郎 (一財)日本科学技術連盟 嘱託
	9:55～10:10	質疑・応答	
	10:10～10:20	休憩	
	10:20～11:05	〈講演2〉経営環境変化に適応するTQM(方針管理)の活用	原田 聡 トヨタ自動車九州(株) 経営企画本部長
	11:05～11:20	質疑・応答	
	11:20～12:05	〈講演3〉飯塚病院におけるTQMの展開と方針管理	増本 陽秀 (株)麻生 飯塚病院 院長
	12:05～12:20	質疑・応答	
	12:20～13:10	昼食休憩	
	13:10～13:55	〈講演4〉(仮)企業存在価値の創造 品質経営	佐々木 正人 (株)竹中工務店 取締役社長
	13:55～14:10	質疑・応答	
	14:10～14:20	休憩	
	14:20～15:05	〈講演5〉お客様への新たな価値提供を実現する方針管理活動	原 和彦 アクシアル リテイリング(株) 代表取締役社長・CEO
	15:05～15:20	質疑・応答	
	15:20～15:40	休憩・移動	
6/3 （土）	15:40～18:00	GD(2)	
	18:00～19:00	夕食	
	19:00～20:00	GD(3)	
	20:00～21:00	談話室	
	8:30～10:00	GD報告(10分×8班 ※予備10分)	司会：永田 靖 報告：各班リーダー
	10:00～10:15	休憩	
	10:15～11:35	総合討論	
	11:35～11:50	第115回 品質管理シンポジウム まとめ	永田 靖
	11:50～12:00	次回(第116回)品質管理シンポジウム案内	佐々木 真一 (一財)日本科学技術連盟 理事長 (116QCS主担当)
	12:00～	昼食・解散	

第1班	趣旨		論点	
	顧客価値創造を実現して組織能力を獲得するためには経営トップのリーダーシップが不可欠です。組織のミッション・ビジョン・戦略を方針・方策として展開し、職場第一線まで浸透させていかねばなりません。一方で、ミドルマネジメントや現場から課題や問題意識を吸い上げることも重要です。これらを考慮して、方針管理の仕組みをどのように構築し、どのように運営するのが課題となります。第1班では、そのためのトップの役割について議論します。とくに、ビジョンを達成するために中期経営計画と単年度方針をどのように策定し、互いを連動させるのか、そのための具体的な仕組みについて議論します。さらに、大きな変化が短時間で生じる時代に、方針管理の考え方や方法論について新たに考慮しなければならないトップの役割について議論します。		①ビジョンを達成するための中期経営計画と単年度方針をどのように策定し、連動させるか。 ②方針・方策が現場第一線まで浸透するためにはどのような仕組みが必要か。その浸透度を何で計ればよいか。 ③変化の時代に方針管理の仕組みに関して新たに考慮しなければならないトップの役割は何か。	
第2班	趣旨		論点	
	多くの企業がモノづくりに加えコトづくりビジネスへのチャレンジを進めようとしています。コトづくりにおいて方針管理は有効かという問いかけがしばしばなされていますが、このような問いかけがあるのは、コトづくりにおいて有効な方針管理は、モノづくりにおいて定着してきた方針管理とは異なるかもしれないという考え方に基づくものです。そこで第2班では、まずはコトづくりとは何かとの認識合わせを行ったうえで、コトづくり推進上の各社の課題を洗い出し、その課題達成に貢献する方針管理の在り方について議論します。そのために、従来の方針管理をレビューし、コトづくりの方針管理でも踏襲すべき共通点を明らかにします。そのうえで、従来のモノづくりの方針管理では対応が難しい点を明確化し、コトづくりの方針管理について新たに追加・変更すべき考え方やポイントについても議論します。		①コトづくりのための方針管理における問題点は何か。 ②コトづくりのための方針管理において必要な工夫点は何か。 ③モノづくりの方針管理とコトづくりの方針管理の相違点は何か。	
第3班	趣旨		論点	
	日常管理のベースに立った方針管理はTQMが推奨してきた強力な方法論で広く海外でも浸透し始めています。方針管理と日常管理の使い分けと連携については、日本品質管理学会規格ならびにJISなどで概念的には明確に定義されています。しかし現実には、日常管理の対象としたほうが良い項目を方針管理として毎期のように出ししまうために戦略的対応ができなくなってしまう、設定段階では区別したものの運用段階では帳票以外は殆ど同じで、敢て区別した意味がなくなってしまう、膨大な労力をかけた割に方針管理の本来の機能が果たせていない例等が散見されます。そこで、第3班では基本に戻って、そもそもなぜ日常管理に加えて方針管理が必要なのかを確認したうえで、両者をどのように使い分けたらよいかを議論します。		①方針管理と日常管理の区分けの実態と問題点。 ②なぜ日常管理に加えて方針管理が必要か。 ③両者の区分けのポイントは何か。 ④両者の運用上の具体的な違いは何か。	
第4班	趣旨		論点	
	機能別管理は、経営要素（品質、コスト、納期、安全、環境など）について部門をまたがるプロセスを全組織的な視点から管理するものです。方針管理と機能別管理の連携を明確にしてTQM活動を推進していくことは重要です。第4班では、方針管理と機能別管理の連携について議論します。日常管理が部門ごとのタテ方向の管理なら、機能別管理はヨコ方向の管理です。タテ方向の管理は部門内ですから方針・方策の展開は比較のわかりやすいのに対して、ヨコ方向への管理や展開は部門の壁を超える必要があります。方針・方策が浸透しにくい構造がみられます。部門内の利益だけでなく全組織の利益を考慮するには、機能別管理をどのように活用して方針管理につなげていくのかを議論します。		①機能別管理の困難さは何か。方針管理と機能別管理の連携の困難さは何か。 ②機能別管理を推進していくポイントは何か。 ③方針管理と機能別管理を有効に連携していくにはどうすればよいか。	
第5班	趣旨		論点	
	中長期的な経営目標・戦略の実現のためには、方針管理を効果的に進める必要があります。逆に言うと、方針管理が形式化・形骸化しては、目標・戦略の実現はうまくいきません。第5班では、方針管理を形式化・形骸化させることなく、効果につながるように、うまく実施するための工夫やポイントについて議論します。うまく実施するポイントを考えるためには、その反対のうまく実施できない例を考えるのがよいでしょう。そこで、まず、100年使える「ダメ方針」など、うまく実施できなかった事例を挙挙げし、それらがなぜダメなのか、なぜうまく実施できないのかを議論します。その上で、方針管理が効果をあげない、さらには形式化・形骸化してしまう要因を探ります。それらの議論から、実行可能性と意義のある方針・目標・方策の設定方法、有効な上下左右の「すり合わせ」の方法など、方針管理の効果的な進め方を議論します。		①100年使える「ダメ方針」など、うまく実施できなかった方針はどのようなものがあるか。なぜそれらがダメなのか。 ②実行可能性と意義のある方針・目標・方策とはどのようなものか。考慮するポイントは何か。 ③有効な上下左右の「すり合わせ」の方法、方針管理の効果的な進め方、評価の方法は何か。	
第6班	趣旨		論点	
	変化の激しい現代では、事業環境が絶えず変化しています。このような不安定な状況において、ビジョンやミッションのような理念的なものはともかく、中長期経営計画やその達成のための具体的な方針（重点課題・目標・方策）を適宜・適切に変更していく必要に迫られます。このとき必要なのは、事業環境の変化を的確に把握し、方針をタイミングよく変更し、それに基づいて組織が迅速に行動できる能力です。第6班では、このような問題意識のもと、事業環境変化に伴う方針管理の動的な運用方法について議論します。まず、期の途中において、事業環境の変化をどのように捉え、現在の方策を実施することによる目標達成度合いを予測するか、その方法論について議論します。そして、方針を年度途中のどのタイミングで、どのような基準に基づき、どのように変更して運用していくのかについて議論します。		①事業環境の変化の把握はどのようにすればよいか。 ②方針（重点課題・目標・方策）を変更するかどうか、どう変更するかをどのように判断すればよいか。 ③方針を変更した場合に、これに組織が迅速に対応できるようにするにはどうすればよいか。	
第7班	趣旨		論点	
	方針管理を適切に実施していくためには、方針の進捗や達成の程度を適切に測り、それに基づいてレビューしなければなりません。その際、どのような管理指標を用いればよいかが重要になります。管理指標には「原因・プロセス系」と「結果・目的系」という観点があり、それらをレビューするときにFour Student Modelが用いられることもあります。第7班では、方針管理の進捗や目標達成を適切に測る管理指標の設定をいかに行うか、日常管理の管理指標との違いを意識し、期末レビューに活かせる管理指標とはどのようなものか、それを用いてどのようにレビューを行えばよいかについて議論します。		①方針管理の進捗の管理指標は何に留意して設定すればよいか。 ②日常管理の管理指標との違いは何か。 ③方針管理のレビューはどのように行えばよいか。	
第8班	趣旨		論点	
	方針管理を適切に実施していくためには、トップから職場第一線までの全ての人が方針管理について理解し、実践する能力を持つことが必要です。そのために、全階層の人たちに方針管理の意義についての教育が重要となります。そのとき、方針管理だけではなく、TQMの中での位置づけ、特に日常管理や機能別管理との関係についても教育する必要があります。さらには、目的と手段の明確化、手段実行のための具体的な方法論まで考慮しなければ、方針管理は「絵に描いた餅」になってしまいます。第8班では、どの階層の人たちに、方針管理のどのような内容を、どのように教育すべきかを議論します。		①TQM活動における方針管理の意義と位置づけ。 ②各階層に方針管理と日常管理・機能別管理の違いをどのように教育するか。 ③方針管理の具体的な教育の進め方とその際の留意点。	

確認ください！

品質管理シンポジウムご参加にあたって

より効果的な議論を行うため、参加の皆様と以下の通り用語の定義と考え方を共有した上で進めます。

品 質	顧客及び社会のニーズを満たす度合い
品 質 保 証	顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動
	⇒「品質」は、モノの出来栄のことではない。
サービス・ドミナント・ロジック	価値は、顧客がモノを使いこなすことによって生まれる ※顧客の使用するプロセスを含めなければ品質保証は完結しない
グッズ・ドミナント・ロジック	価値は、工場出荷時点で「モノ」に備わっている ※提供側のプロセスのみで品質保証は完結する
	⇒ハード・ソフトは価値を実現するための道具にすぎず、「価値」は、顧客が道具を使いこなすことによって生まれる。「価値」を考える際は、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何ができれば喜ぶのか？」という着眼点で考える。

品質管理シンポジウム会員にご入会ください！

QCSは会員のみが参加できるシンポジウムです

メリット 1 講演（トップランナー企業）から、TQM の推進・動機づけに役立つ情報が得られます。

メリット 2 グループ討論等で、他社の考え、推進事例等を議論し、課題解決への糸口を見つけられます。

メリット 3 参加者同士のコミュニケーションを深める場を多く設定しており、品質経営推進企業幹部との人脈が形成されます。

入会費用▶企業会員:1口につき年額199,100円(税込み) 団体会員:1口につき年額117,700円(税込み)

入会いただきますと

● 企業会員:無料参加枠2名(トップ枠・通常枠)を確保できます。

● 団体会員:無料参加枠1名(通常枠)を確保できます。

● 無料参加枠以外の方は特別価格(46,200円・税込み)でご参加いただけます。

● 本シンポジウムの報文集・実施報告が無料で入手できます。

※日科技連賛助会員とは異なります。QCS 独自の会員制度です。ご入会は、随時受付けております。

品質管理シンポジウム 会員企業・団体

※2023年3月現在、50音順 123社

1 アート金属工業 (株)	34 サンデンホールディングス (株)	64 (株)テクノプロ テクノプロ・デザイン社	96 ヒロセ電機 (株)
2 (株) アーレスティ	35 (株) シーヴィテック	65 (株) デンソー	97 富士フィルムビジネス
3 (株) アイシン	36 (株) GS ユアサ	66 (株) 東海理化	イノベーション (株)
4 アイシン・インフォテックス (株)	37 (株) ジーシー	67 東久 (株)	98 富士フィルム
5 アイシン機工 (株)	38 (株) ジーシーデンタルプロダクツ	68 (株) 東陽テクニカ	マニファクチャリング (株)
6 アイシン軽金属 (株)	39 JFE スチール (株)	69 東レ (株)	99 富士電機 (株)
7 愛知製鋼 (株)	40 (株) ジェイテクト	70 TOTO (株)	100 フジミ工研 (株)
8 アイホン (株)	41 (株) ジェイテクトグライディング	71 (一社) 富山県経営者協会	101 フタバ産業 (株)
9 (株)青山製作所	ツール	72 トヨタ自動車 (株)	102 (株) プリヂストン
10 EARTHBRAIN	42 (株) ジェイテクトサーモシステム	73 トヨタ自動車九州 (株)	103 べんてる (株)
11 (株) 麻生	43 芝浦機械 (株)	74 トヨタ自動車北海道 (株)	104 (株) 保志
12 (株) アドヴィックス	44 清水建設 (株)	75 (株) 豊田自動織機	105 本田技研工業 (株)
13 (株) イシダ	45 JUKI (株)	76 トヨタ車体 (株)	106 前田建設工業 (株)
14 NEC プラットフォームズ (株)	46 シロキ工業 (株)	77 トヨタ紡織 (株)	107 (株) 前田製作所
15 (株) FTS	47 (株) 新川	78 トヨタホーム (株)	108 マツダ (株)
16 (株) MC システムズ	48 (株) SUBARU	79 長津工業 (株)	109 (株) マルヤスエンジニアリング
17 エリーパワー (株)	49 住友理工 (株)	80 (株) ニコン	110 丸和電子化学 (株)
18 大塚化学 (株)	50 積水化学工業 (株)	81 日華化学 (株)	111 三島食品 (株)
19 岡谷電機産業 (株)	51 (株) セキソー	82 (株) 日科技連出版社	112 三菱電機 (株)
20 (株) オティックス	52 ソニーセミコンダクタ	83 日産自動車 (株)	113 (株) 村田製作所
21 オムロン (株)	ソリューションズ (株)	84 日産車体 (株)	114 (株) メイドー
22 花王 (株)	53 ダイキン工業 (株)	85 日本精工 (株)	115 名北工業 (株)
23 鹿島建設 (株)	54 (株) 大広	86 日本電気 (株)	116 安川オートメーション・ドライブ (株)
24 (有)企画システムコンサルティング	55 ダイハツ工業 (株)	87 (株) 日本科学技術研修所	117 安川コントロール (株)
25 (株) キャタラー	56 大豊精機 (株)	88 日本商工会議所	118 (株) 安川電機
26 (株) 神戸製鋼所	57 ダイヤモンドエレクトリック	89 日本特殊陶業 (株)	119 ユーロフィン FQL (株)
27 コーセル (株)	ホールディングス (株)	90 パナソニックホールディングス (株)	120 (株) ユニバンス
28 小島プレス工業 (株)	58 ダイヤモンド電子 (株)	91 パナソニック	121 楽天グループ (株)
29 コニカミノルタ (株)	59 大和リース (株)	オペレーショナルエクセレンス(株)	122 (株) リコー
30 (株) 小松製作所	60 (株) 竹中工務店	92 (株) 羽生田製作所	123 リコーテクノロジーズ (株)
31 (株) コロナ	61 中国化薬 (株)	93 日立 Astemo (株)	
32 サラヤ (株)	62 (株) 千代田グラビヤ	94 (株) 日立製作所	
33 澤藤電機 (株)	63 DMG 森精機 (株)	95 日野自動車 (株)	

参加要領

※詳細は、開催要領をご確認ください。(宿泊費等)

開催日時	2023年6月1日(木) 19:00~3日(土) 12:00 (6月1日受付開始17:00~、夕食17:30~) 第115回品質管理シンポジウムは、現段階では予定通り開催いたします。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大等、都道府県・自治体または保健部局の協力要請等により、オンライン開催に変更する場合がございます。(2023年3月現在) 最新情報は、適宜webサイトでご案内を申し上げるとともに、連絡担当者様にe-mail等で別途ご連絡いたします。				
会場	大磯プリンスホテル 〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546 TEL: 0463-61-1111 FAX: 0463-61-6281				
参加対象	企業の役員、上級管理職の方々他 ※是非、今回のシンポジウムテーマ・グループ討論テーマに深い関連のある部門とその役割を担うの方々のご参加について、ご検討をお願いします。				
参加方法	<table border="1"> <tr> <td>集合参加</td><td>現地(大磯プリンスホテル)へお越しいただき、シンポジウムの全プログラムへ参加可能</td></tr> <tr> <td>ライブ視聴参加</td><td>PC等で、特別講演(1日目)、オリエンテーション・講演1~5(2日目)、GD報告・総合討論(3日目)を視聴可能</td></tr> </table> ※ライブ視聴参加の場合、GDへは参加できません。 ※ライブ配信の詳細(配信プラットフォーム、推奨環境等)はWebサイトをご参照ください。	集合参加	現地(大磯プリンスホテル)へお越しいただき、シンポジウムの全プログラムへ参加可能	ライブ視聴参加	PC等で、特別講演(1日目)、オリエンテーション・講演1~5(2日目)、GD報告・総合討論(3日目)を視聴可能
集合参加	現地(大磯プリンスホテル)へお越しいただき、シンポジウムの全プログラムへ参加可能				
ライブ視聴参加	PC等で、特別講演(1日目)、オリエンテーション・講演1~5(2日目)、GD報告・総合討論(3日目)を視聴可能				
参加費(税込)	QCS 企業会員・団体会員 参加方法に関わらず、企業会員はトップ枠・一般枠の2名分、団体会員は通常枠の1名分の無料枠をご利用いただけます。 ※トップ枠を使用されない場合、無料枠は「通常枠のみ(1名分)」となります。 無料枠以外の参加は、参加方法に関わらず、46,200円/1人の参加費を申し受けます。 一般参加 ライブ視聴参加のみ 99,000円/1人 団体参加(ライブ視聴参加) シンポジウムの各講演、GD報告・総合討論を多くの経営幹部の方々に参加(視聴)いただく場合に、ご利用しやすい参加形態です。 ◆50名まで……………550,000円 ◆51名~100名まで…880,000円 ◆101名~200名…1,100,000円 ※201名以上の場合は、下記までお問い合わせください。 その他、付帯費用 ・宿泊費は、開催要領をご確認ください。 ・食事代(6月1日夕、6月2日朝・昼・夕、6月3日朝・昼)は参加費・宿泊費に含まれています。尚、宿泊費、交通費はご負担ください。 ※大磯プリンスホテルは全館禁煙です。喫煙禁止場所(各居室等)での喫煙が確認された場合、50,000円のクリーニング代を請求いたします。(電子タバコも禁止です)				

最近の主な講演者

(組織名・役職は講演当時の表記になっております)

第114回	第113回	第112回
 藤井 保文 氏 (株)ビービット 執行役員CCO 東アジア営業責任者	 長谷部 佳宏 氏 花王(株) 代表取締役 社長執行役員	 津賀 一宏 氏 パナソニック(株) 取締役会長
第111回	第110回	第109回
 山本 圭司 氏 トヨタ自動車(株) 執行役員	 樋口 泰行 氏 パナソニック(株) 代表取締役 専務執行役員 コネクティッドソリューションズ社 社長	 百野 研太郎 氏 楽天(株) 副社長執行役員 COO

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略)

(組織名・役職は2023年3月現在の表記になっております)

 小笠原 浩 (株)安川電機 代表取締役会長	 永田 靖 早稲田大学 教授	 宮本 眞志 トヨタ自動車(株) カスタマーファースト推進本部長
 棟近 雅彦 早稲田大学 教授	 森 雅彦 DMG森精機(株) 代表取締役社長 兼 グループCEO	 山田 秀 慶應義塾大学 教授

シンポジウム 申込方法

QCS専用Webサイトからお申し込みください。

お申込みはこちらから

<https://www.juse.jp/qcs/app/>

一次申込期日: 4月17日(月)までとさせていただきます。

※ソーシャルディスタンスの確保、3密の回避の観点から、会場定員を設定しています。一次申込期限前であっても、定員に達した場合は締め切らせていただくことがありますので、お早めにお申し込みください。
 一次申込締め切り後、会場定員に空きがあった場合は、二次申込を実施します。
 二次申込の詳細は、改めてご連絡いたします。

お申込み
QRコード



シンポジウムの
内容・参加費に関する
問い合わせ先

一般財団法人日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当(安随/密/橋本)
 〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 1-2-1
 TEL: 03-5378-1215 E-mail: qcs@juse.or.jp

※QCSの宿泊に関する費用のご請求については、株式会社JTBが担当しております。
 お問合せの内容によっては、株式会社JTBより直接ご連絡させていただく場合がございます。
 なお、請求書はシステムの都合上郵送にてお送りいたします。